

平成18年度 山間集落实態調査から得られた主な傾向

平成19年6月28日
地域自立戦略課

1 共通基礎データ（集落における人口・高齢化率、世帯数の推移）

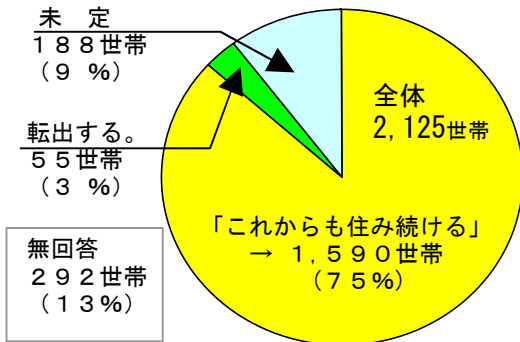
人口・世帯数の減少ピークは過ぎ、今後は静かに高齢化が進行すると予想される。

区分	H7	H12	H7との差	H18	H12との差
人口（人）	11,006 (100%)	9,620 (87.4%)	▲1,386 (▲12.6%)	8,870 (80.6%)	▲750 (▲6.8%)
（県全体）	(614,929) (100%)	(613,289) (99.7%)	(▲1,640) (▲.3%)	(607,012) (98.7%)	(▲6,277) (▲1.0%)
世帯数（世帯）	2,912 (100%)	2,786 (95.7%)	▲126 (▲4.3%)	2,736 (94.0%)	▲50 (▲1.7%)
（県全体）	(188,866) (100%)	(199,988) (105.9%)	(11,122) (5.9%)	(208,526) (110.4%)	(8,538) (4.5%)
高齢化率(%)	28.1%	34.5%	6.4%	38.7%	4.2%
（県全体）	(19.3)	(22.0)	(2.7)	(24.1)	(2.1)

2 定住の意向

集落住民の定住意向は高く、先祖から受け継いだ山林・田畑や、墓の保全に対する意識が強い。

今後の定住意向について 回答：1,833世帯



問：「これからも住み続けるとした理由は何ですか？」

回答 1,397世帯



3 暮らしの安心・安全の状況

災害時の孤立や、防犯対策について、住民の安心感は十分では無いと考えられる。

項目	有効回答			備考
	世帯数	割合		
災害時に孤立する不安を感じている世帯	1,966 世帯	1,046 世帯	53.2%	
防犯対策の必要性を感じている世帯	1,814	761	42.0%	

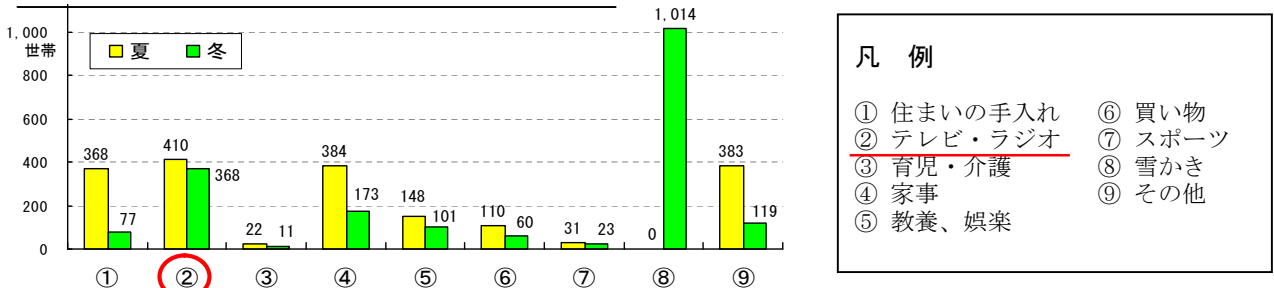
4 日常生活の状況

①運転者の高齢化に伴い、今後、買い物などの日常生活に支障が発生すると予想される。

項目	車を運転している全世帯数	59歳以下の運転できる同居家族がある世帯		内、65歳以上の方が運転	
		59歳以下の運転できる同居家族が無い世帯	割合	割合	
世帯数	1,468 世帯	1,099 世帯	369 世帯	(323 世帯)	(228 世帯)
割合	100%	75%	25%	(22%)	(16%)

②休日に、テレビ・ラジオ視聴を楽しんでいる世帯が多く、地上放送のデジタル化(2011.7)に伴い、受信機の買い換えなど、高齢者世帯の家計支出に大きな負担が発生すると予想される。

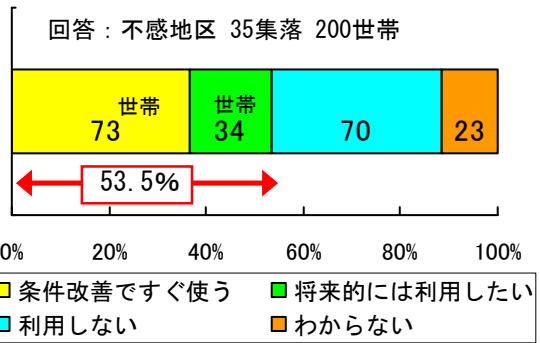
問：「主な休日のすごしかたは何ですか？」(複数回答)



5 文化的な暮らしの状況

① 携帯電話の不感地区での将来的な利用ニーズは高い。

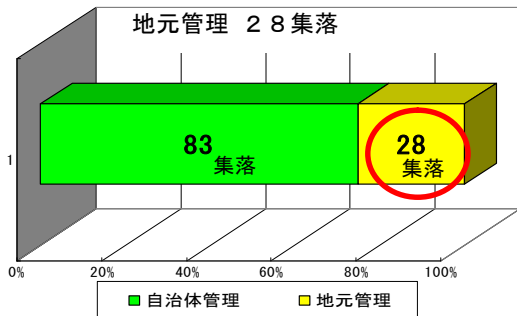
問：「将来、携帯電話を利用したいと思いますか？」



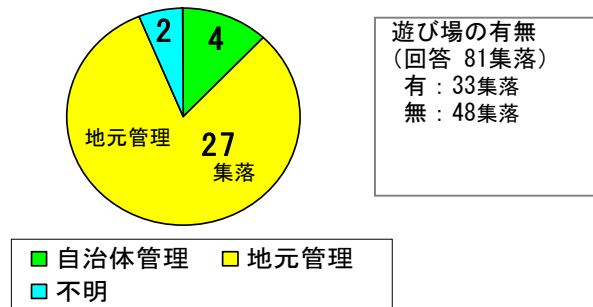
6 共有財産の管理状況

高齢化により、地元管理の上水道や子供の遊び場の維持管理が困難となる集落の発生が予想される。

① 上水道の維持管理状況



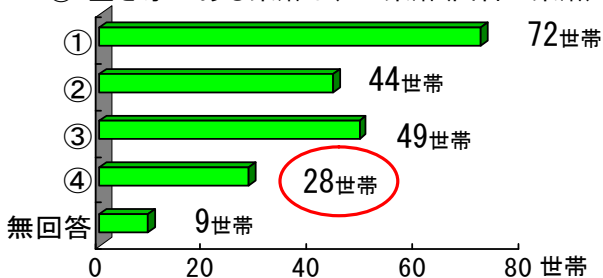
② 子供の遊び場の維持管理状況



7 財産管理の状況

大半の集落において空き家があり、この内、修繕の必要無い世帯は36% (72軒) であり、今後の活用が期待できる一方で、1割が修繕不能となっている。

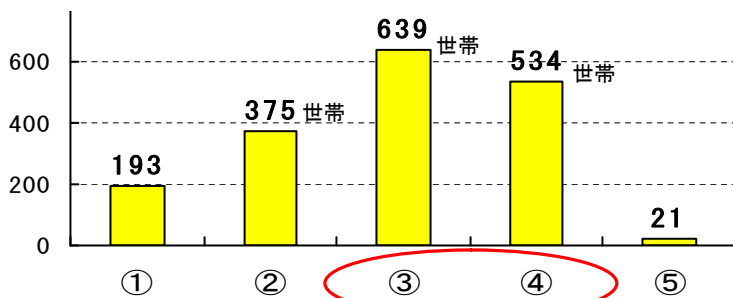
① 空き家がある集落は、71集落 (回答92集落) 202世帯



凡例

- ① 改修の必要性無し
- ② 簡単な改修が必要
- ③ 大きな修繕が必要
- ④ 居住不可能 (修繕不能)

② 山林境界の把握状況 後継者が境界を知らない世帯が66% (1,173世帯) と多い。



凡例

- ① 知っている
- ② ほとんど知っている
- ③ ほとんど知らない
- ④ 知らない
- ⑤ その他

8 収入の状況

世帯における最も大きな収入は給与収入であるが、年金も高い割合を占める。

